

熊本大学教育学部附属中学校

創立70周年記念事業 趣意書

熊本大学教育学部附属中学校は、昭和22（1947）年の学制改革に伴い、同年4月に熊本師範学校男子部附属中学校及び女子部附属中学校として創設された後、昭和24（1949）年5月両部が統合され、熊本大学熊本師範学校附属中学校に改称、昭和26（1951）年4月に熊本師範学校の廃止に伴い、熊本大学教育学部附属中学校に改称、平成16年（2004）年4月に国立大学の法人化に伴い、国立大学法人熊本大学教育学部附属中学校に移行し、現在に至っております。

これまで1万余名の卒業生を送り出し、日本国内のみならず国際社会に有為な人材を世に輩出してきた伝統校であることは皆様ご存じのとおりであります。教育学部附属中学校が創立70周年を迎えるにあたり、その記念事業といたしまして、老朽化や平成28年熊本地震により劣化した施設の改修、さらに部活動部室、屋外トイレなどの新築を目指した募金活動（別紙、募金要領）を計画いたしました。

長年改築の要求を続けてまいりました体育館は、緊急避難所として機能できる形での改修がやっと認められました。また、経年劣化による床面のひび等のため怪我の可能性があったプールも緊急営繕により改修がなされましたが、まだまだ現在の附属中は、生徒たちにとって決して最善の環境とは言えません。

たとえば、現在、部活動の部室が整っていないため、生徒たちの中には、校舎の陰や通路・自転車置場・教室等で着替える者もいるなど、プライバシーも確保できない状況です。また、屋外にトイレがないため、屋外での教育活動時にトイレを利用する場合は、校舎内もしくは体育館のトイレへ行かなければなりません。そのため、週末の利用者のため、校舎や体育館を開錠しなければならず、防犯上、また衛生的にも問題があります。さらに、屋外トイレは災害時の避難所として利用する際にも無くてはならない施設であり、実際に熊本地震の緊急避難場所となった際にも困った経緯がございます。

附属中生徒が学校生活を安心して過ごすことができ、より高度な教育を受けられるよう、施設の改善が急務であることは承知しているところですが、学部、附属学校の予算は年々縮小しており実施が困難な状況です。そのため、この機会に広く関係の方々から寄付を募り、本校の教育環境を改善し充実を図ることにより、さらに、これからも広く国際社会で活躍する人材を育てていきたいと考えます。

つきましては、事業の趣旨をご理解賜り、何卒お力添えいただきますようお願い申し上げます。

平成29（2017）年9月吉日

発起人

釜	健	治	（熊本大学教育学部附属中学校教育後援会会長）		
三	浦	和	浩（	”	教育後援会副会長）
鮫	島	久	美（	”	教育後援会副会長）
八	戸	和	男（	”	同窓会会長）
石	原	靖	也（	”	同窓会副会長）
高	野	定	（	”	同窓会副会長）